

国際理解教育/開発教育 学習指導（活動）案

【実践者】

授業者氏名	河島 三奈	学校名	葛飾区立葛美中学校
教科（科目）・領域	音楽科	対象学年（人数）	3年5組（34名）
実践年月日もしくは期間（時数）	2020年12月～2021年1月（3時間）		

【実施概要】

1. 単元名（活動名）：日本の音楽						
2. 実践する教科・領域： 音楽 単元：「日本の音楽」		3. 学習領域				
			1	2	3	4
		A 多文化社会	文化理解	文化交流	多文化共生	
		B グローバル社会	相互依存	情報化		
		C 地球的課題	人権	環境	平和	開発
		D 未来への選択	歴史認識	市民意識	社会参加	
4. 単元の目標（評価規準を意識して設定）： 音楽の特徴や、その背景となる文化歴史等に関連づけて考え、多様な音楽や音楽文化について理解する。						
5. 単元の 評価規準	①知識及び技能	・多様な音楽の固有の良さを知覚し、理解する。				
	②思考力、判断力、表現力等	・音楽の特徴を捉え、それぞれの郷土芸能を比較しながら感じ取ったことを表現できる。				
	③学びに向かう力	・興味関心を持ち、多様な音楽の固有の良さを主体的に捉えようとする意欲をもって取り組むことができる。				
6. 単元設定 の理由・単元 の意義 （児童／生徒 観、教材 観、指導観）	【単元設定の理由あるいは単元の意義】 本校の生徒を対象にしたアンケートによると、「クラシック音楽＝難しいもの、とっつきにくいもの」「音楽の時間はつまらない」等という印象を持ったまま小学校から本校に入学してくる生徒が多いことが明らかになっている。そこで、実生活と切り離された音楽ではなく、どのように生徒の生活と音楽科の授業を結びつけるかということをテーマに、生徒の実態に合わせて授業を行ってきた。 本単元では人々の生活に密着している音楽である郷土芸能を学習する。併せてアイヌ音楽に影響を受けた伊福部昭氏も取り上げる。伊福部氏が幼少期に体験したアイヌ民族との異文化理解、後の作品づくり(ゴジラのテーマ等)との関連性をSDGsの概念(16. 平和と公正をすべての人に)を踏まえた上で取り扱いたい。					
	【児童／生徒観】 本学級は男子17名、女子17名 計34名のクラスである。本校の研究として、コロナ禍前まではコの字型4人組話し合い活動の授業を実践していた。音楽の授業においても、鑑賞活動では4人組になり話し合い活動の場を設けている。その結果、男女問わず誰に対しても交流することができ、困っている仲間を助ける関係性が築けているように感じる。					
	【教材観】 我が国の在留外国人は7年連続増加しているとの発表があった（日本経済新聞）。今後ますます加速していくであろう国際化社会において、私たちに求められるものは、共に社会を形成する人々の多様な生活文化や宗教観等を尊重し、異なる価値観に触れたり、受け入れたりしながら共ににより良く生きていこうとする姿勢であると考えている。このような社会の動きを音楽文					

	化の側面から捉えると、郷土芸能による日本国内の多様性や、人々が影響を互いに受けあい醸し出される音楽や音楽文化について理解することが必要となるであろう。 そこで、本題材では、日本の郷土芸能を用いながら、それらが人々の生活の中でどのように形成され、伝承されてきたか、そして今日に至るまでどのように音楽文化に影響を与えてきたのかを学習することにより、「音楽に触れるうえで必要な視点とは何だろうか」という問いについて考えることをねらいとする。教材曲では、音楽を知覚・感受しながら音楽を形づくっている要素のリズム・旋律・構成等を学習する。改めて音楽の意義について考え、自分なりの価値観を見出し、社会と主体的に関わろうとする態度の育成に繋げたい。 【指導観】 視点1 SDG s 16 平和と公正をすべての人に 視点2 音楽は昔から各地の人々の生活の中で生み出され育まれてきた。本来は、あらゆる人々の生活に密接に結びついていたものである。その土地ならではの音楽もあれば、人々が互いに影響しあい生まれた音楽もある。日本の郷土音楽を通して、その土地ならではの音楽的な特徴を見出し、音楽がどのように人々の生活に結びついていたかという視点と、多様性の中で生まれた音楽という視点で授業を行いたい。音楽科の見方・考え方である「音楽に対する感性を働かせ、音楽を形づくっている要素とその働きの視点で捉え、自己のイメージや感情、生活や社会、伝統や文化などと関連付けること」を意識し、音楽に取り組むことへの必要性をもたせながら学習活動を構成したい。
--	--

7. 単元計画（全3時間）

※全体の総時間数や「本時」の記入場所は適宜変更してください。

時	ねらい	学習活動	資料など ※：JICA リソース 活用はここに記載
1	「日本の郷土芸能はどのような背景に生まれたか」という課題について考え、その地域ならではの音楽的な特徴を生徒が理解する。	・ CD 及び DVD 教材を鑑賞する ・ プリントに感じ取った音楽的特徴をプリントに記入する ・ 発表する ・ プリントに自分の意見をまとめる	・ CD・DVD（教育芸術社） - 沖縄 エイサー - 徳島 阿波踊り - 秋田 津軽三味線 - 北海道 アイヌ古式舞踊
2	アイヌ音楽について文化的背景から学び、音楽的な特徴を理解する。	・ 数種類のアイヌ音楽を、旋律、リズム、音楽の構成、使われている楽器等に注目して鑑賞し、プリントに記入する ・ 発表する ・ プリントに自分の意見をまとめる	・ アイヌ古式舞踊と東京オリンピックの開会式についての新聞記事 ・ アイヌ（岩崎書店） ・ CD・DVD（教育芸術社）
3 本時	「音楽に触れるうえで必要な視点とは何か」を考える。	・ CD で鑑賞し、プリントに記入する ・ プリントに自分の意見をまとめる	・ ゴジラのテーマ CD

8. 本時の展開（概略）

本時のねらい：多様な音楽の特徴を理解し、音楽に触れるうえで必要な視点とは何かを考える

※過程の網掛け部分は適宜変更下さい。

過程・時間	教師の働きかけ・発問および学習活動	指導上の留意点 (支援)	資料（教材）
-------	-------------------	-----------------	--------

導入 (5分)	これまでの学習を通して、日本にも様々な伝統芸能があり、音楽的な特徴を考えてきました。この学習を通し、音楽に触れる上で必要な視点は何かを考えてみましょう		
展開 (35分)	今からある音楽を鑑賞します。リズム、旋律、強弱、音の質や響きについて気がついたことをプリントに記入し、発表しましょう ・拍子が変わります ・ゴジラの鳴き声が入っています ・リズムが特徴的です ゴジラのテーマを作曲した伊福部昭について学習します。伊福部氏がなぜアイヌの人と交流があったのでしょうか ・伊福部氏が北海道で生まれ育ったからです ・伊福部氏は転勤族だったからです ・アイヌの人と交流があるような場所で伊福部氏が育ったからです 戦時中、伊福部氏をはじめ、音楽家はどのようにして過ごしていたと思いますか ・音楽家も兵隊として徴兵されていたと思います ・練習や仕事どころではなかったと思います 「伊福部氏は何がきっかけでゴジラのテーマ曲を担当することになったのでしょうか」 ・北海道から東京に活動拠点を移したことがきっかけになったと思います ・誰かに紹介されて仕事を得了と思います 前時でアイヌ音楽の特徴を考えましたが、ここで再度、アイヌ音楽とゴジラのテーマを鑑賞します。アイヌ音楽とゴジラのテーマの音楽的な特徴で共通点を考えてみましょう ・リズムが反復しています ・メロディーよりリズムが優位です ・ストラヴィンスキーの音楽に似ています ・不協和音が使われています 伊福部氏はどのようにしてアイヌ音楽を自分の作	・リズム、旋律、強弱。音の質や響き等について注目して鑑賞する ・北海道に生まれ育ち独学で作曲家になった背景や、伊福部氏がアイヌ民族から影響を受け、作品に反映されている点などを紹介する ・アイヌ音楽とゴジラのテーマを比較し、	ゴジラのテーマ CD  学習シート   

まとめ (10分)	品に反映させたのかについて考えてみましょう ・主旋律を前に出すのではなく、リズムを主題にしたと思います。 ・何度も同じフレーズを繰り返しています。 音楽に触れるうえで必要な視点とは何かについて考えてみましょう ・日本国内においても、様々な人が住んでいて、影響を受けてできた音楽があります ・音楽には地域ならではの特徴があり、伝承されています	音楽的特徴の共通項を見出す ・日本にもさまざまな民族の人の暮らしがあり、互いに影響を受け合ってきた音楽がある(ゴジラのテーマ)という視点を含めた振り返りを行う。	
9. 評価規準に基づく本時の評価（評価方法） ・多様な音楽の固有の良さを知覚し、理解しているか。（観察、ワークシート） ・音楽の特徴を捉え、それぞれの郷土芸能を比較しながら感じ取ったことを表現できているか。（観察、ワークシート） ・興味関心を持ち、多様な音楽の固有の良さを主体的に捉えようとする意欲をもって取り組むことができたか。（観察、ワークシート）			
10. 学習方法および外部との連携 民族音楽・郷土芸能を研究している知人をゲストティーチャーとして招き、実際に楽器等の演奏を見せていただく等の取り組みを考えていたが、コロナ禍による影響により実施が厳しくなった。また、本来は話し合い活動等を行っているが、当面の間は学校全体として見合わせているため、講義型の授業実施となる。			
11. 学校内外で国際理解教育・授業実践を広める取り組み 機会があれば、校外学習等を利用して JICA 市ヶ谷地球ひろばに行き、事前事後学習を含めた国際理解教育に取り組みたい。			

【自己評価】

12. 苦労した点	新型コロナウイルスの影響による学校行事の変更に伴い、計画が難航した。授業内容に関しては、アイヌの伝統楽器を借りてくる等の様々な創意工夫ができたかもしれないが、計画の変更が相次ぎ実施に繋がられずに悔しい思いもした。変更せざるを得ない部分も大きかったが、授業が実施できて安心している。
13. 改善点	アイヌの文化、音楽について深く取り上げたいと考えている。今回は、動画鑑賞等の対応となったが、特色ある芸術文化として、できれば本物の楽器に触れる時間を作る等の工夫をしたい。

14. 成果が出た点	生徒が非常に興味をもっていた点が良かった。アイヌ伝統楽器「ムックリ」の独特の響きや、簡単な旋律を何回も繰り返すため耳に残るアイヌ音楽に興味をもっていた。アイヌ民族が物語に登場する、漫画・アニメ「ゴールデンカムイ」の影響もあり、図書館でアイヌの本を借りて調べてきた生徒もいて感激した。誰もが知っているであろうゴジラのテーマ曲の背景を、郷土芸能と関連させた観点から見つめることで、音楽文化の多様性に結びつけられたのではないかと思う。
15. 学びの軌跡 (児童生徒の反応、感想文、作文、ノートなど)	「授業の振り返り」より抜粋 「得てきた経験や慣れたものなどは色々な場面で時には全く違うジャンル同士でも混ざり合って一つのものになっているのだ、ということを感じ、それと同時に他の美術作品や多くの伝統芸能などでも同じようなことが起きているかもしれないと思った。それを見つけてみたいという気持ちと面白さを感じた。」 「日本の音楽は地方によって特徴があり、それぞれを活かし、新しいものを作り出していることを学びました。音楽に限らず、どんなこともベースを元にアレンジしていくのが今後生きること重要だと考えます。」
16. 授業者による自由記述	2020 年度のセミナーに参加させていただき大変勉強になりました。教員として音楽科の中で国際理解教育を行いたいと思いながら数年が経ちましたが、2020 年度はついに実現できたことを嬉しく思います。東京オリンピックや漫画・アニメのヒットに後押しされる形で生徒がアイヌ音楽に興味を持って授業に臨んでくれたことも実践して良かったと感じました。音楽科は高校に進学すると選択制になり、人生で最後の授業になる生徒が多いです。義務教育最後の音楽の授業で、生徒の中に何かしら心に残るものがあればいいなと思います。

参考資料：

「音楽入門」(伊福部昭,角川ソフィア文庫, 2016)

「伊福部昭: ゴジラの守護神・日本作曲界の巨匠」(文藝別冊/KAWADE 夢ムック, 2014)

「ベスト・オブ・ゴジラ」(伊福部昭,ユニバーサルミュージック, B00IZO3HB2)

「調べる学習百科 アイヌ もっと知りたい! くらしや歴史」(岩崎書店の調べる学習百科シリーズ,2018)

日本の郷土芸能 学習プリント

年 組 番 氏名

私たちの郷土には、四季折々に行われる祭りや行事などに伴うさまざまな芸能があります。これらを知ることが、その土地の歴史や文化を理解することにもつながります。ここでは、こうした芸能の成り立ちを知るとともに、そこで演奏される音楽に親しみ、それらの特徴を感じ取りましょう。

自分が知っている郷土芸能を挙げましょう。どんなものがありますか？

--

鑑賞：声や楽器の音色、リズム、旋律などに注目して聴きましょう。

郷土芸能	音楽的な特徴（リズムや楽器の音色に注目して聴こう）
アイヌ古式舞踊 （北海道）	
エイサー （沖縄県）	
阿波踊り （徳島県）	
祇園ばやし （京都府）	

授業を通して分かったこと・学んだこと

--

日本の音楽

伊福部 昭 (いふくべ あきら) 1914 年～2006 年

- ・日本を代表する作曲家
- ・日本の音楽らしさを追求した民族主義的な力強さが特徴
- ・「ゴジラ」「座頭市」など数多くの映画音楽も手掛ける



(1) 伊福部氏の人生を考える

STORY1：誕生～青年期

1914 年（大正 3 年）北海道に生まれる。クラシック音楽好きの兄の影響を受け、中学生の時にヴァイオリンに熱中し、独学で作曲も学ぶ。

19 歳の時、独学で日本の盆踊りやねぶた、お祭りのリズムや民謡を使った「ピアノ組曲」を作曲する。

21 歳の時、初のオーケストラ作品「日本狂詩曲」を作曲し、パリの国際コンクール（チェプレニン賞）

1 位受賞。世界的な評価を受ける。その後も北海道帝国大学（現在の北海道大学）を卒業後、北海道で林務官の傍ら作曲活動が続ける。東京にも海外にも出ていかず、北海道にて独学で作曲を勉強し続ける。

第二次世界大戦が勃発（1939 年～1945 年）

伊福部氏は作曲活動も続けたが、1945 年に科学的研究員として航空機用木材研究に従事。防護服など支給されず、無防備なまま実験を続ける。研究結果を得ないまま終戦を迎える。

STORY 2：北海道から上京する

1946 年（昭和 21 年）終戦後、作曲活動に専念するために上京する。東京音楽学校（現在の東京藝術大学）で作曲科の講師を務め、有名作曲家を輩出した。映画音楽を手掛けるようになる。

1954 年（昭和 29 年）40 歳 日本初の怪獣映画音楽を作曲・・・「ゴジラ」

「脚本を読んでみたら、ゲテモノでなく思えた。現代のテクノロジーに対する反発のようなものがあって、『ゴジラ』という生物が現れる。これはどうしてもやりたいと言った。」

以後、「ビルマの豎琴」や「座頭市」シリーズなど多くの映画音楽を手掛けた。

(2) 伊福部音楽の特徴について考える

ゴジラのモチーフに見られるように、同じような繰り返しのパターンを使う。そこに、音程を変えたり変拍子を入れることで変化をつける。これは、短い旋律の繰り返しが多く、即興性のあるアイヌ音楽の影響を受けていると言われている。

伊福部氏の父親は地域の村長であり、近所のアイヌ集落とも交流があった。伊福部少年は、アイヌ集落に行き来するようになり、そこでアイヌの歌や踊りに接する。アイヌ民族の生活には常に音楽や歌があり、自然と共に生き歌や音楽が生まれる文化に伊福部少年はカルチャーショックを受ける。

アイヌ民族の音楽に触れ、「自分は何を生んだらいいのだろう？」と繰り返し考える伊福部少年は、ピアノやオーケストラを使って現代に活かす作曲活動に取り組む。

日本の音楽

■ゴジラのテーマを鑑賞する

音楽的な特徴（旋律・強弱・リズム・拍子等）について気がついたことを記入しましょう。

■アイヌ古式舞踊を思い出す

「日本の郷土芸能」でアイヌ古式舞踊を学習しました。もう一度、アイヌ古式舞踊やアイヌ音楽を鑑賞します。音楽的な特徴（旋律・強弱・リズム・拍子等）について気がついたことを記入しましょう。

■ゴジラのテーマとアイヌ音楽を考える

アイヌ音楽と共通している部分や音楽的な特徴は何だろう？

■授業の振り返り